

校訓	友 勤 自 愛 勉 治	 令和6年度 東中だより 第5号	発行日	令和6年6月7日
教育目標	新しい多様化の時代を生きる 心身ともにたくましい生徒の育成		発行者	伊丹市立東中学校 校長 前田 徳三

【修学旅行】

5月22日（水）～24日（金）に3年生の子どもたちと長崎、佐賀方面に修学旅行に行きました。3年生の楽しそうな笑顔がたくさん見られ、とても清々しい気分になりました。また、修学旅行を通して、多くの3年生の子どもたちと気さくに話をすることができたことは、私にとって大きな成果を得られた場となりました。出発式で私は①しおりに書かれている今回の修学旅行のねらい、学年目標を達成させよう、②怪我なく、無事に伊丹に戻ってこよう、③元気に出発し、笑顔で解散できるようにしようと三点の話をしました。解散時は疲れた様子が見られましたが、3年生の子どもたちが笑顔で学校を後にし、充実した修学旅行になりました。修学旅行の3日間、どの内容もとても素晴らしかったのですが、特に平和セレモニーは私にとって感動的なものでした。



平和セレモニーは、1日目に平和公園において実施しました。そこで、平和宣言、千羽鶴献納、学年合唱を行いました。その際、多くの海外の方々を含め、一般の観光客などが大勢おられましたが、大半の方はその場に足を止め、本校の平和セレモニーを食い入るように見ておられました。セレモニーの終了後、高齢の男性が私のもとに来られ、目に涙を溜めて手を合わせながら感謝の言葉を述べられました。また、私自身が学生時代にお世話になった方で、現在、福山雅治さん（シンガーソングライター、俳優）の母校である長崎市立淵中学校の校長先生が、本校の子どもたちの様子をご覧になり、とてもすばらしい子どもたちだと絶賛していただきました。

その他にも、1日目のホテルの方、民泊先の方、バスの運転手さん、ガイドさん、旅行業者の方々など、修学旅行でお世話になった多くの方々に至るところで、とても素晴らしい子どもたちであると褒めていただき、校長としてとても誇らしく、うれしい思いをさせてもらいました。そのため、解散式では、子どもたちに「ありがとう」と感謝の言葉を述べました。これも本校の教育にご支援、ご協力いただいている保護者の方々のお陰であると感謝いたします。

【トライやる・ウィーク】

兵庫県では、1995年に阪神・淡路大震災が発生し、97年には神戸市須磨区で連続児童殺傷事件が起きたことを受け、「命の貴さ」と「人と人、地域と地域の支え合い

の大切さ」を捉え、「こころ豊かで自立する子ども」を育成する目的で、平成10年度から中学2年生を対象にトライやる・ウィークを実施しています。今年度で27年目を迎えています。今年度、本校では、基本5月20日（月）～24日（金）の期間に88カ所の事業所にお世話になり、トライやる・ウィークを実施しました。私は、本校トライやる推進委員会の方々と、数カ所の事業所を訪問しました。どの事業所でも、子どもたちは真剣な表情で取り組んでおり、とても頼もしさを感じました。

子どもたちが、社会の中心として働く30～40歳頃の2050年頃には、日本の人口は1億人を割り、高齢化率は約40%にもなると予想されています。また、2045年には、AIなどの技術が、人間よりも賢い知能を生み出すことが可能になる「シンギュラリティ」の時代になるとも予測されています。

かつて、ニューヨークタイムズに「今の子どもたちの65%は、将来、現在では存在しない仕事に就く」と書かれていました。夢を抱くというのは、今ある職業の中から選んでいくのに、それが35%しか残っていません。さらに、スクラップ・アンド・ビルドの激しい東京においては、10年間で生き残る飲食店は1割であるという記事がありました。新しい店はその1割を目指し、9割は消えるという現実があります。

我々大人は、そのような時代を担う子どもたちが逞しく生きられるように先を見越して育てていかなければいけません。子どもたちには、悲観することなく、どのような未来がやってきても対応できる、順応できる「柔軟性」や「適応力」を身につけてもらいたいと思います。それらを牽引する力が「主体性」や「考える力」「好奇心」だと思います。これは、楽しく機嫌よく生きる力や熱意が必要です。

最後にはこれに帰着すると思います。本校においては、身に付けた「学力」や「知徳体」を持って、自らの可能性を探し求め、心を柔らかく、何事にもチャレンジし、予測困難な未来を力強く生き抜いていけるよう取り組んでまいります。



【熱中症の対策】

5月20日付けにて、各家庭には「熱中症予防について」で、学校の熱中症対策についてお伝えしました。昨年度、環境省は1898年の統計開始以来、最高という猛暑が続き、毎月の平均気温も過去最高を記録したことを発表していました。また、先日、気象庁は今年の6～8月までの3ヶ月予報を発表されました。地球温暖化の影響に加え、後半になるほど南米ペルー沖の海面水温が下がる「ラニーニャ現象」が発生する可能性が高くなるため、全国的に平年よりさらに気温が高くなると予想していました。環境省は、在宅の高齢者などはひと夏に600人から1,000人の人が亡くなっていると公表しています。今や熱中症は毎年襲いかかってくる災害です。ただ、十分、予防できる災害でもあります。環境省や気象庁から出されている熱中症アラートに注意し、エアコンなどの有効活用やこまめな水分補給、しっかり食事や睡眠をとるなど、熱中症にならないよう十分にご注意ください。

